

松峯「とうば様」の古碑

奥川松峯集落東側の峠道を登った鞍部^{あんぶ}に「とうば様」と呼ばれる場所があります。この小さな広場は、子どもたちの遊び場・公園・村人の憩いの場として親しまれてきました。

その傍らに10基ほどのさまざまな古碑があります。その中の1つに、高さ約120cm、幅35～38cm程の碑があります。今では風化が進み、表面の文字はほとんど判読できませんが、記録から「諸国六十六部巡礼供養塔」と彫られていたことが判っています。今でも建立年の「享保六年（1721）辛丑天七月十八日」の文字は判読できます。町内ではあまり例のない碑だと思われます。「六十六部」（または「六部」）とは、法華経を66部写した僧が全国66カ所の霊場に一部ずつ納めた行脚僧をいいますが、仏像を背負い全国を行脚する「廻国聖」をも「六部」と呼ばれています。

松峯に遺るこの碑は、この廻国聖に教化されて（結縁）、「六部」となった矢部佐太郎という村人によって建立されたものと考えられます。それは享保7年（1722）、近くの菩提寺^{ぼだいじ}に寄進された殿鐘の銘に「松峯村六部矢部佐太郎」の名がみえることから推察できます。村の若者にとって外部からもたらされる情報・考えは新鮮であり、刺激的で、奮い立つものがあつたであろうことが推測されます。

また、この峠路は山三郷・喜多方地域と津川河湊を結ぶ古道でもあり、多くの人馬が往来したものと思われます。松の根元に2基の小さな「廻国供養塔」があり、そこには「文政十一年（1828）施主和右衛門 妻 初」の文字がみられます。不幸にも旅の途中で命を落とした人の供養のため建立したのでしょうか。大正4年（1915）6月には茨城県牛久出身の画家小川芋銭^{せん}が玉木玄琢・田代蘇陽・岩田圭一郎ら地元名士との万治峠行の際もこの古道を通つたといわれています。



今月の表紙

今月は、4月8日に行われた令和4年度西会津高校入学式より、6〜7階で各学校の入学式とこゆりこども園の入園式について掲載しています。ご入学・ご入園した皆さんおめでとうございます。

編集後記

これまで広報にしあいづは冊子での発行のほかに、ホームページにも掲載し、多くの皆さんにご覧いただきました。この度、電子書籍版としての公開も新たに開始し、スマートフォンなどでもさらに見やすく閲覧できるようにになりました。

今後も、1人でも多くの皆さんに広報にしあいづを見ていただけるよう、さまざまな発信方法を活用していきたいと思つています。（秦）



広報にしあいづ電子書籍版は、上記QRコードから！